

ごあいさつ

兵庫県中学校教育研究会社会部会
部会長 近藤 達志
(神戸市立大原中学校長)

今年の秋は、夏の猛暑の名残か、訪れが極端に遅く、いつまでも暑さが感じられました。みなさまのお住いの地域ではいかがですか。例年通りのリズムで生活が送れないことに違和感があり、体調を崩される方も多とききます。ご自愛ください。

そのような気候の中、本日は、第58回兵庫県中学校教育研究会社会科教育研究大会神戸大会にご参加いただいたみなさま、ありがとうございます。県内各地から多くの参加者をお迎えし、ここ神戸市立湊翔楠中学校を会場として開催できますことは、まことに喜ばしく、みなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。今大会では、研究成果を冊子に印刷せず、データとして全中社研のホームページに掲載させていただきました。開催経費の削減にも努めるとともに、デジタル化による利点を感じられればと考えております。ご不便をお感じになられた方々には、お詫び申し上げます。初めての試みで、試行錯誤の連続でした。どうぞ初めてをご経験ください。

また、今日まで研究活動に邁進していただいた神戸地区の先生方、本当にありがとうございます。3分野の授業公開と研究発表、研究協議と最大限の取組をしていただき、その研究成果の発表が今からとても楽しみです。

今大会のテーマは、「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学習」とし、副題として、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」を掲げています。これらに迫ることができるように、その仮説として『単元や内容のまとまりで授業を構成し、「問い」と「資料」で迫れば「深い学び」を実現する授業につながる』を実証すべく取組んでおられます。その道のりは、決して平坦なものではなく、授業づくりの中心的な先生方のなかでも激論が戦わされたことが何度もありましたし、研究が足踏みすることなどしばしばであったと伺っています。みなさん方の眼で、テーマや副題、仮説の実証に迫ることができるか、ご検証ください。この検証が、神戸地区の先生方の労に報いる一番の方法かと存じます。教育を取り巻く環境が、劇的な変化を遂げつつある現在、私たちの授業観の変更をもきつと迫られているのでしょうか。なかでも変化の激しい不確実な時代を生き抜く力とは何なのかを問い続けていかねばならないのだと感じます。そのような視点からもご覧ください。

今日まで、龍谷大学法学部教授の中本和彦先生には、書き尽くせないご指導をしていただきました。直接的な言葉による指導はもちろん、言外のご示唆にも多くの気づきを得させていただきました。感謝の言葉しかありません。粘り強くご指導いただけのご姿勢そのものが私たちの目指す姿の一部であったと思います。本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、今研究大会を支えて下さった全ての方々、特に兵庫県教育委員会事務局義務教育課の先生方、神戸市教育委員会事務局教科指導課の先生方には深くお礼申し上げます。

多くの関係者の皆様に感謝をお伝えし、ごあいさつとさせていただきます。

今後とも本研究会の活動にご理解、ご協力をお願いいたします。

ごあいさつ

神戸市立中学校教育実践研修
社会科グループ 代表 原 拓司
(神戸市立有野北中学校長)

兵庫県下よりお集まりの社会科の先生方こんにちは。ようこそみなとまち神戸にお越しくださいました。神戸市社会科教員一同、皆さまのご来神を心より歓迎いたします。

さて、「第 58 回兵庫県中学校教育研究会社会科教育研究大会 神戸大会」の開催にあたり、主催地区を代表して一言ごあいさつ申し上げます。

現在、神戸市内には、市立中学校 80 校、市立義務教育学校 2 校、市立中学校分校 3 校、市立特別支援学校（中学部）5 校があり、そこに所属する社会科教員約 400 名が神戸市立中学校教育実践研修社会科グループの会員として、授業づくり研究や指導法研修など、社会科教育研究活動に熱心に取り組んでいます。

本大会開催に向け、数年前より龍谷大学法学部教授の中本和彦先生にご指導・ご助言をいただき、「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」のための研究・研修を重ねてまいりました。そして、集大成となる今年度は、深い学びとはどういうことか、また、いかに深い学びにするかということについての議論を各分野で進め、

- ①問いと答えの距離を遠くする。
- ②問いは「なぜ」「なに」を中心とする。
- ③問いと資料で生徒に迫り、先生は答えを言わない。

という 3 つのポイントを設定し、「問い」の内容や方法に重点を置いた授業づくりに取り組むことにしました。

本日の地理・歴史・公民の 3 分野の公開授業では、「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科授業」という研究主題のもと、「問い」を意識した主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業に向けた神戸の実践をご覧ください。また午後からは、中本先生に「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」というテーマでご講演いただきます。「深い学びとは」を追究した、この神戸の取り組みが、少しでも先生方の今後の授業づくりの参考になれば幸いです。

本日は神戸の社会科教育の研究成果をご覧くださいことはもちろん、大会終了後には異国情緒あふれる神戸の街並みや、今年 6 月に開園した総合海洋リゾート「須磨シーワールド」、日本三名泉・日本三古泉であり太閤秀吉も愛した名湯「有馬温泉」、また神戸牛や中華料理など、神戸の美味しいお食事などもお楽しみいただければうれしく思います。

最後に本大会を開催するにあたり、兵庫県教育委員会事務局義務教育課並びに神戸市教育委員会事務局学校教育部教科指導課をはじめ、多方面より多大なご支援やご指導をいただきましたことに心より感謝申し上げます。そして、本日お忙しいにも関わらず、多数ご参加いただきました社会科の先生方、また、会場を提供していただきました神戸市立湊翔楠中学校に心からお礼を申し上げ、ごあいさついたします。

大会要項

第 58 回 兵庫県中学校教育研究会社会科教育研究大会 神戸大会

- 1 研究主題 ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学習
～主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり～
- 2 開催日時 令和 6 年 11 月 22 日(金) 午前 10:30～午後 4:15 (受付 午前 10 時～)
- 3 会 場 神戸市立湊翔楠中学校 〒650-0017 神戸市中央区楠町 4 丁目 2-5
電話 078 -351-2152 Fax 078-351-2153
- 4 主 催 兵庫県中学校教育研究会社会部会
神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ
- 5 後 援 兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会
- 6 記念講演 中本 和彦 氏 (龍谷大学法学部教授)
演題「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」

7 日 程

10:00 10:30 11:20 11:30 12:00 13:10 14:10 14:20 15:50 16:15

受 付	公開授業 3 分野	移 動	開会行事 基調提案	昼食 休憩	分野別分科会 実践報告 研究協議	休 憩	記念講演 龍谷大学教授 中本 和彦 氏 演題「主体的・対話的で深い学び を実現する社会科授業づくり」	閉 会 行 事
--------	--------------	--------	--------------	----------	------------------------	--------	--	------------------

8 公開授業

基調提案	神戸市立井吹台中学校 主幹教諭 木方 毅		
分野・単元	地理的分野 「北アメリカ州」	歴史的分野 「欧米諸国における近代化」	公民的分野 「地方自治」
公開授業	神戸市立小部中学校 教諭 安岡 敬祐	神戸市立神出中学校 教諭 鳥海 翔吾	神戸市立横尾中学校 教諭 上田 聖子
場 所	体育館	武道場	音楽室
分野別 実践報告	神戸市立星和台中学校 教諭 山田しほり	神戸市立西代中学校 教諭 佐々木規敦	神戸市立本多聞中学校 教諭 武野 哲夫
指導助言	神戸市教育委員会 指導主事 伍賀 正晃	兵庫県教育委員会 主任指導主事 由良登志行	神戸市教育委員会 係長 古米 弘明

全体会次第

【開会】

あいさつ

兵庫県中学校教育研究会社会部会 部会長 近藤 達志

来賓あいさつ

兵庫県教育委員会 主任指導主事 由良 登志行

【基調提案】

神戸市立井吹台中学校 主幹教諭 木方 毅

【記念講演】

龍谷大学法学部 教授 中本 和彦 氏

演題「主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり」

【閉会】

次年度開催地あいさつ

西播磨地区中学校教育研究会社会科教育研究部会
会長 大野 公嗣
(佐用町立三日月中学校長)

閉会のことば

神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ
代表 原 拓司

次年度開催予定

第 59 回兵庫県中学校社会科教育研究大会（西播磨大会）

開催日時：令和 7 年 11 月 21 日（金）10:00～15:30（予定）

会 場：佐用町立上月中学校

講 師：兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教授 山内 敏夫 氏

記念講演

主体的・対話的で深い学びを実現する社会科授業づくり

龍谷大学法学部 教授 中本 和彦

講師のプロフィール

龍谷大学 法学部 法律学科 教授（教職センター主任）
博士（学校教育学）

平成3年に広島大学教育学部を卒業後、広島県の公立高等学校教諭（主に「地理」を担当）となり、平成14年広島県立教育センター指導主事（小学校・中学校社会科，高等学校地理歴史科・公民科担当）。平成20年に四天王寺大学教育学部講師、その後准教授、教授を経て、平成31年から龍谷大学法学部准教授、その後教授。その間、平成11年兵庫教育大学大学院修了、平成23年兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科修了（博士（学校教育学））。

広く初等・中等の教育実践に関わり、社会科，地理の教育内容開発を中心に研究。特に児童・生徒の思考力や判断力を育てる社会科の指導と評価を研究対象としている。社会科における「いい授業」とは何かを問い続け、どうすればよいかを探求している。

好きなプロ野球チーム：広島カープ

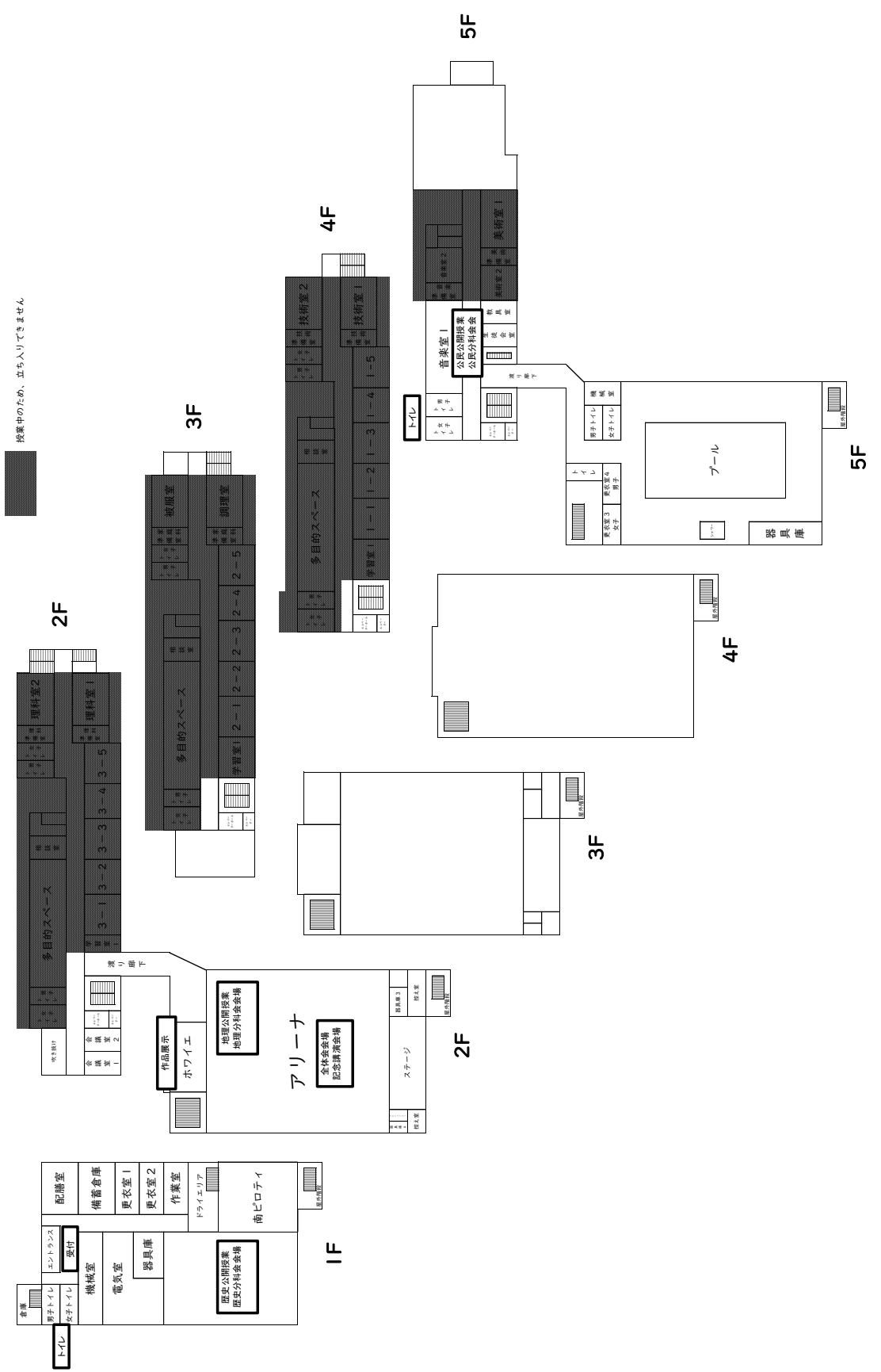
日本社会科教育学会 評議員
日本地理教育学会 評議員
社会系教科教育学会 理事
全国社会科教育学会 理事

【主な著書】

- 『社会科教育事典』日本社会科教育学会編（分担執筆） ぎょうせい 2024年4月
『レリバンスの構築を目指す令和型学校教育』（分担執筆） 風間書房 2024年3月
『考えを深めるための教育課程』（分担執筆） ミネルヴァ書房 2023年3月
『優れた社会科授業づくりハンドブックー型にはまらない多様な授業を創るー』全国社会科教育学会編（分担執筆） 明治図書出版 2022年9月
『つまずきから授業を変える！高校地理「PDCA」授業&評価プラン』（編著者,分担執筆） 明治図書出版 2022年8月
『中学校社会指導スキル大全：12ジャンル70本のすぐに使える授業技術完録』（分担執筆） 明治図書出版 2022年5月
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 地理歴史】』国立教育政策研究所教育課程研究センター（分担執筆） 東洋館出版社 2021年11月
『中等地理教育内容開発研究ー社会認識形成のための地誌学習』（単著，博士論文） 風間書房、2014年3月 等多数

令和6年度 県中社会場図

神戸市立湊船橋中学校



授業中のため、立ち入りできません

基調提案

神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ幹事長
神戸市立井吹台中学校 主幹教諭 木方 毅

研究主題 ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学学習
副題 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

1. 研究主題・副主題について

神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ(旧・神戸市立中学校教育研究会社会科研究部)では、平成28年に近畿大会で発表の機会を得た。『未来を見つめ、ともに学びあう社会科学学習 「知る」「わかる」を通して育む社会的判断力』を主題・副主題に設定し、「社会的判断力」を、友人と共に対話的な学習スタイルを通して育むことを目指す研究に取り組んだ。単元を構想すること、知識を構造化すること、課題を設定することなどのカリキュラム・マネジメントを、現行の学習指導要領に先立って示す成果があった。

今回、第58回兵庫県中学校教育研究会社会科教育研究大会神戸大会にむけて、「ともに学びあい、未来をつくる力を育む社会科学学習 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」と主題・副題を設定した。これまでの研究成果を引き継ぎつつ、新しい時代に向けてさらに発展させるべく、「深い学び」を実現する学習過程に焦点をおいた。

第4期神戸市教育基本計画は、令和6年からの5年間の教育ビジョンとして「自他を大切に自ら考え未来をつくる」を示し、子どもたちが自他を大切に、多様な仲間とつながり、対話を重ねる経験を通じ、未来の創り手となるよう育むことを目指している。未来の社会を生きる公民的資質として、社会参画・価値判断・意思決定の力を育むために、主体的・協働的な学びを通して、深い学びを実現することを目指す研究に取り組んできた。

2. 研究仮説

神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ(以下、神戸市社会科グループ)では、主体的・協働的な学びを通して、深い学びを実現することを目指し、次の研究仮説をたてた。

単元や内容のまとまりで授業を構成し、「問い」と「資料」で迫れば、「深い学び」を実現する授業につながると考えられる。

[工夫]

- (1) 単元や内容のまとまりで授業を構成し、問いと答えの距離を遠くする。
- (2) 問いは「どのような」を乗り越え、「なぜ」「なに」を中心にする。
- (3) 生徒が問い続けられるように、問いと資料で生徒に迫り、先生は答えを言わない。
- (4) ともに学びあう場面を設定する。

→学びあいには2つの場面がある。 ①認識を深める学びあい
②価値判断や意思決定へといたる学びあい

3. 授業展開について

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」について、以下のことを求めている。

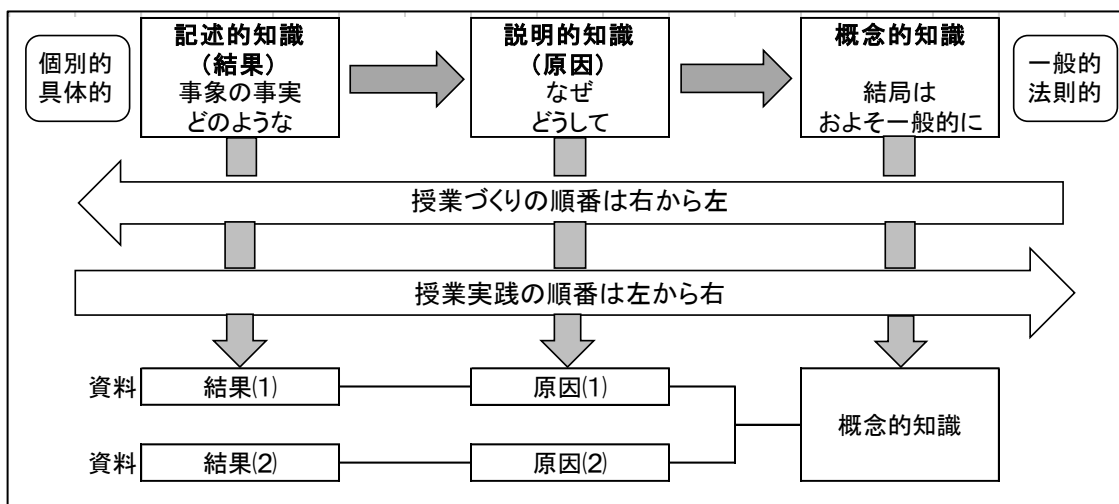
<p>(2) ③ 学習指導の改善充実や教育環境の充実等</p> <p>i) 「主体的・対話的で深い学び」の実現</p> <p>(「主体的な学び」の視点)</p> <p>…児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つこと～単元等を通じた学習活動の中で動機付けや方向付けを重視する…</p> <p>(「対話的な学び」の視点)</p> <p>…実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりする活動が期待される。しかしながら、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘される…</p> <p>(「深い学び」の視点)</p> <p>…深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視点からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。…</p> <p style="text-align: right;">『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』 p14, 15</p>

ここで「主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計すること」と記述されている通り、知識の質の高さが求められており、より高次の知識の獲得を目指すことが「深い学び」であると考えられる。

龍谷大学・中本和彦教授によると、知識は以下のように分類される。

記述的知識	いつ どこで 誰が 何を
分析的知識（概括的知識）	どのような
説明的知識	なぜ
概念的知識	なぜ
価値的知識（規範的・評価的知識）	どうすべき

平成 28 年の近畿大会において、神戸市では「知識の構造図」（下図）を作成した。構造化することによって授業で取り上げる知識を明確にし、記述的知識から説明的知識、概念的知識へと社会的認識（学び）を深める授業づくりを目指した。



今回、神戸市社会科グループが提案する授業モデルは、さらに高次の知識である価値的知識へと至る「深い学び」を目指すもので、学びの深化の道筋を以下のように考えた。

(i) 事実の理解

上記の「記述的知識（いつ・どこで・誰が・何を）」「分析的知識（どのような）」を認識、理解する段階である。

(ii) 事実の因果的説明

「なぜ」という問いにより事実に思考が促され、「説明的知識」が獲得される。

(iii) 理論を活用した説明（理論的説明Ⅰ）

獲得された説明的知識が、他の事象にも応用されるかどうか検証することにより、理論の累積的成長が促され、「概念的知識」が獲得される。

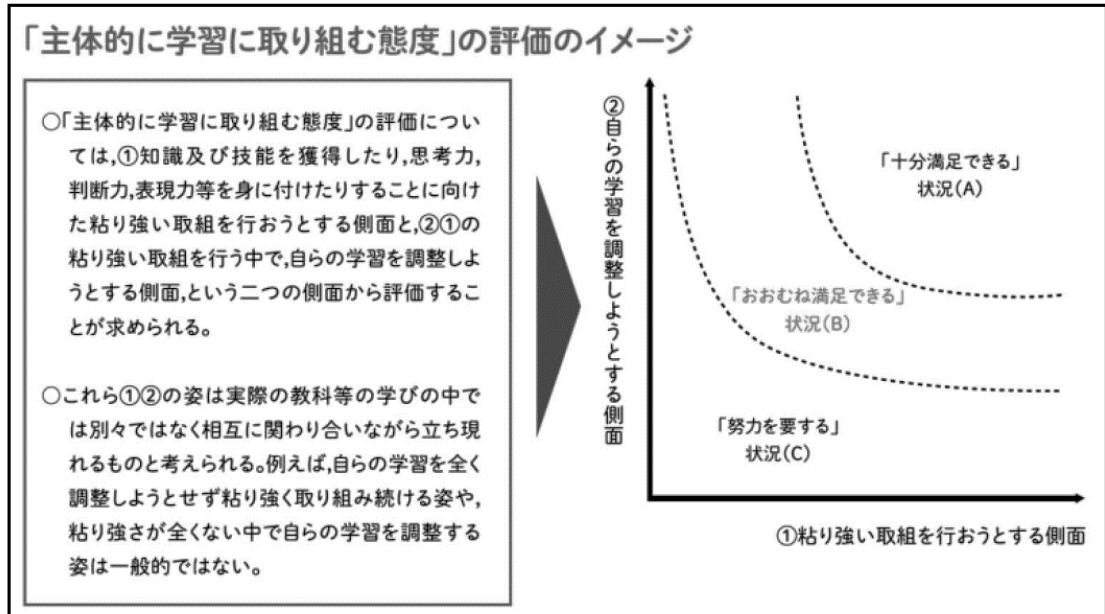
(iv) さらに説明力の大きい理論による説明（理論的説明Ⅱ）

獲得された理論が通用しない「…のに、なぜ～」（複文型の問い）という新たな「なぜ」により、理論の変革的成長が促される。

(v) 理論を活用した意思決定（社会参画）

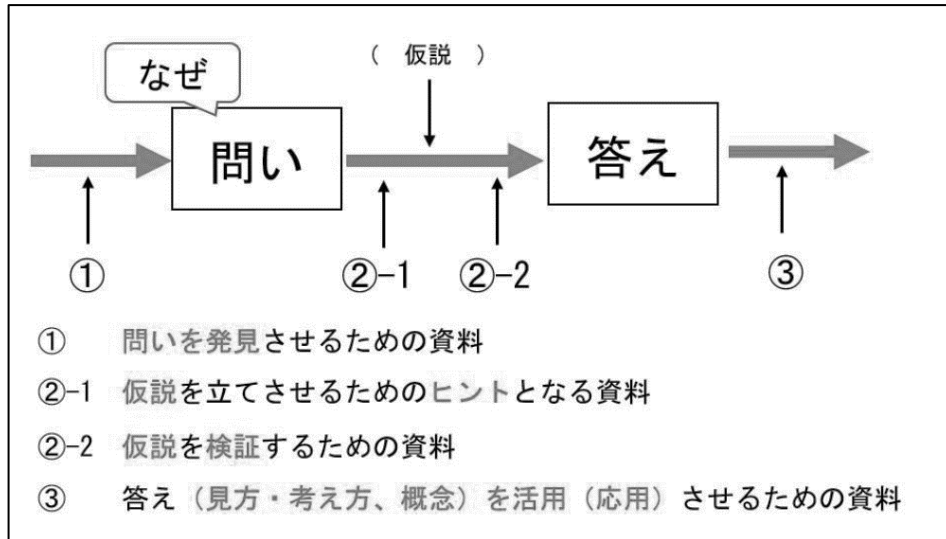
現実の社会的課題に対する「どうする」「どうすべきか」という問いにより、社会参画につながる「価値的知識」が獲得される。

国立教育政策研究所が「主体的に学習に取り組む態度」について示した資料（下図）によると、学習評価の際に、①粘り強い取り組みを行おうとする、②自らの学習を調整しようとする、2つの側面の見取りが必要とされている。これらを見取るためには、授業において「粘り強い取り組み」と「自らの学習の調整」の2つが必要とされることが前提となる。



神戸市社会科グループでは、以上の条件を充たす「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、以下の授業モデルと4つの工夫を取り入れた授業づくりに取り組んだ。

生徒が知的に挑戦し続ける授業モデル



工夫（1）単元や内容のまとまりで授業を構成し、問いと答えの距離を遠くする。

深い学びとするためには、1時間の追究では完結せず、生徒の追究過程が数時間にわたり、その中で粘り強さや自己調整が必要となる授業とする必要がある。つまり、問いと答えの距離を遠くすることが必要である。そのためには、問いや知識を構造化し、「単元を貫く問い」（大きな問い）を中心として、各時間に小さな追究課題（小さな問い）を設定する必要がある。

工夫（２） 問いは「どのような」を乗り越え、「なぜ」「なに」を中心にする。

追究する問い（学習課題）は、生徒にとって何時間にもわたって追究する価値のあるものでなければならない。その際、原因や条件、理由などを問う「なぜ」、解釈や個性、特色などを問う「なに」、そして規範や評価、意思決定を迫る「どうすべき」という問いとなるよう、学問的にも、そして生徒にとっても有意性のある問いにする必要がある。

工夫（３） 生徒が問い続けられるように、問いと資料で生徒に迫り、先生は答えを言わない。

設定された学習課題の追究では、あくまでも生徒が主体的に追究するように、小さな問いと各場面に応じた資料を用意する必要がある。生徒が問い続けられるように、知識を総動員させても解けそうで解けない「なぜ」「なに」を設定する。

工夫（４） ともに学びあう場面を設定する。

学びあいの場面は、２種類あると考えている。①②ともに生徒の主体的な取り組みを中心にする。

①認識を深める学びあい

資料の読み取り、事象の関連づけ、概念的知識の発見や活用など、学びの過程で社会認識を深めることを目的として行う。社会的事象を因果関係で捉えること、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる問いを設定する。

②価値判断や意思決定へといたる学びあい

価値判断を行うことや自らの意見を決定できる力を育成することを目的とする。社会的な論争問題・場面の解決策を、事実を根拠に評価（価値判断）し、選択（意思決定）することができる問いを設定する。

国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』では、指導と評価の計画を記す際に、「評定に用いる評価」と「学習改善につなげる評価」を区別して示している。神戸市社会科グループでは、学習評価に単元を見通し、振り返ることのできる「ポートフォリオ」を用いている。「単元を貫く問い」を問い続け、生徒の単元の見通し、毎時間の振り返り、そして単元の振り返りが記録されたものである。今大会では地理・歴史・公民の分野ごとに書式が異なっているように、「深い学び」が実現されたかどうかの検証方法を開発する途上にある。

4. 終わりに

学習指導要領の前文に「これからの学校には…（略）一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。…」とある。人口減少と核家族化に伴い学校の小規模化が進む中、学校には意図的に多様性を補充することが求められており、「主体的・対話的」な学びの保障はその求めに応えることになる。研究の過程で、学習観を更新することの難しさを感じる場面も多かったが、生徒としっかりと向き合い、生徒たちが一番学べる方法を考えることに大きなやりがいや楽しみも見出すことができた。今後、働き方改

革や部活動の地域移行によって生み出される時間は、生徒と向き合う時間、生徒の最善の学びのための教材研究の時間とすべきことを肝に銘じ、研究を重ねていきたい。

参考文献等

中央教育審議会答申 平成 28 年 12 月

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会』 国立教育政策研究所 令和 2 年 3 月

中本和彦「優れた授業デザインが資料を輝かす」 明治図書『社会科教育』令和 3 年 9 月号

中本和彦「つまづきから授業を変える！」 明治図書『社会科教育』令和 3 年 12 月号

中本和彦「神戸市立中学校教育実践研修社会科グループ 講演会資料」令和 4 年 2 月

リーフレット『みんなでつくる、神戸の学び 自他を大切に自ら考え未来をつくる』 神戸市教育委員会 令和 6 年 4 月